

平成31年度A日程
学力検査問題

①

国語

注意

- 1 開始の合図があるまで問題用紙を開いてはいけません。
- 2 解答用紙は問題用紙の中に挟んであります。
- 3 問題用紙は表紙を除いて7ページで、問題は□一から□四まであります。
- 4 開始の合図があったら、まず、問題用紙および解答用紙の所定の欄に
受検番号を書きなさい。
- 5 答えはすべて**解答用紙の指定された欄**に書きなさい。

受 検 番 号

□ 次の(一)～(六)の問いに答えなさい。

(一) 次の1・2の文の——線部の漢字の読みがなを、それぞれ書け。

1 馬の手綱を引く。

2 不安を拭う。

(二) 次の1・2の文の——線部のカタカナを、それぞれ適切な漢字に直して書け。

1 市長に式典へのリンセキを依頼する。

2 人波にサカらって歩く。

(三) 次の行書で書かれた漢字を楷書で書くとき、総画数が同じ漢字を、後のア～エから一つ選び、その記号を書け。

誠

ア 糖

イ 慈

ウ 紹

エ 極

(四) 次の文の——線部の「明」と、同じ意味で「明」が使われている熟語を、後のア～エから一つ選び、その記号を書け。

真相を解明する。

ア 究明

イ 薄明

ウ 照明

エ 透明

(五) 次の文を、「私は」を書き出しとして、主・述の関係が適切な文になるように推敲して、一文で書け。

職場体験で私の学んだことは働くことの意義を学びました。

(六) 次の俳句についての文章を読み、後の1～5の問いに答えよ。

著作権保護のため掲載していません。

1 文章中の□に当てはまる言葉として適切なものを、文章中から二字でそのまま抜き出して書け。

2 文章中の——線部1の「注目する」の活用の種類を、次のア～エから一つ選び、その記号を書け。

ア 五段活用 イ 上一段活用 ウ 下一段活用 エ サ行変格活用

3 文章中の——線部2に「風花」という季語の読みは完成するのです」とあるが、筆者は、「風花」という季語をどのような言葉だと考えているか。その内容を次のような一文で説明するとき、□に当てはまる適切な言葉を、文章中から十三字でそのまま抜き出して書け。

実態は雪であるが、その雪が晴天に風に乗って舞う様子が桜の花を思わせることから、□として「風花」という季語は読むことができる。

4 文章中の——線部3の「や」のような語を、俳句において何というか。次のア～エから一つ選び、その記号を書け。

ア 掛詞かけことば イ 切れ字 ウ 自由律 エ 枕詞まくらことば

5 「風花や衣山町は坂の町」と同じ季節を詠んでいるものを、次のア～エから一つ選び、その記号を書け。

ア 著作権保護のため掲載していません。

エ ウ イ ア

二 次の文章を読み、後の(一)～(四)の問いに答えなさい。

著作権保護のため掲載していません。

(一) 文章中の に当てはまる言葉として適切なものを、文章中から漢字二字でそのまま抜き出して書け。

(二) 文章中の——線部1に「大きな勘違い」とあるが、これはどういうことか。その内容として最も適切なものを、次のア～エから一つ選び、その記号を書け。

ア 時間を金で買えるようになったので、記憶も将来を担保する装置にできると思った。

イ 時間は記憶によって紡がれていたが、金に換算すると価値が劣化しなくなると思った。

ウ 金は記憶によっては蓄積できないのに、時間と同じように蓄積できるものだと思った。

エ 時代とともに時間の価値が変わっても、記憶は普遍的な価値を持ち続けるものだと思った。

(三) 文章中の——線部2の「モモがどろぼうたちからとりもどした時間」とは、どういう時間だと筆者は述べているか。その内容を、「……コミュニケーションではなく、……コミュニケーションをする時間。」の形になるように、六十字以上八十字以内で書け。ただし、句読点その他の符号も字数に数えるものとする。

(四) この文章の内容と構成を説明したものとして適切なものを、次のア～エから一つ選び、その記号を書け。

ア 初めに現代の時間について疑問を投げかけ、次にその価値の移り変わりを説明し、さまざまな時間と関わってきた筆者の経験を語り、最後に対話の時間の大切さを訴えている。

イ 初めに対話の重要性について提示し、次に顔を合わせて言葉を交わすことが時間とともに変化してきたことを筆者の体験をもとに語り、最後に対話の時間の大切さを訴えている。

ウ 初めに現代の日本の状況を考えさせられる物語に触れ、次に金で価値を計ることのできないものについて筆者の経験を交えながら語り、最後にあるべき社会について述べている。

エ 初めに物語のもつ重要な意味を訴え、次に物語と現代社会とが抱える普遍的問題を指摘し、さらに筆者の経験からの具体例を述べ、最後にあるべき社会について述べている。

三 次の文章を読み、後の(一)・(二)の問いに答えなさい。

著作権保護のため掲載していません。

(一) 文章中の——線部1に「定住生活は、それを決定的に変えた」とあるが、筆者はここでどういうことを述べているか。その内容を次のような一文にまとめるとき、**I**・**II**に当てはまる適切な言葉を、それぞれ二十字以上三十字以内で書け。ただし、句読点その他の符号も字数に数えるものとする。

狩猟採集生活は **I** 生活だったが、農耕や牧畜をする生活は **II** 生活なので、それまでの「私有物」と「所有」の概念に対する制限要因が取り払われてしまったということ。

(二) 文章中の——線部2に「問題は将来世代のために、『地球環境を保全する』ということが漠然とし過ぎているところにある」とあるが、筆者はこのことをどういう問題だと述べているか。また、そのような筆者の考えについて、あなたはどうか考えるか。次の**条件1**～**3**にしたがって書け。ただし、句読点その他の符号も字数に数えるものとする。

条件1 全体を**百字以上百二十字以内**にまとめること。

条件2 最初に、筆者の考えを説明し、次に、それに対する自分の考えを書くこと。

条件3 自分の考えについては、必ず、なぜそう考えるかという理由を明らかにして書くこと。

四 次の文章を読み、後の(一)～(四)の問いに答えなさい。

この世にいかでかかることありけむと、めでたくおぼゆることは、文にこそ侍るなれ。『枕草子』に返す返す申して侍るめれば、事新しく申すに及ばねど、なほいとめでたきものなり。遙かなる世界にかき離れて、幾年逢ひ見ぬ人なれど、といふものだに見つれば、只今さし向ひたる心地して。なかなか、うち向ひては思ふほども続けやらぬ心の色も現はし、言はまほしきことをもこまごまと書きつくしたるを見る心は、めづらしくうれしく、あひ向ひたるに劣りてやはある。

つれづれなる折、昔の人の文見出でたるは、ただその折の心地して、いみじくうれしくこそおぼゆれ。まして亡き人などの書きたる物など見るは、いみじくあはれに、歳月の多く積りたるも、只今筆うち濡らして書きたるやうなるこそ、返す返すめでたけれ。たださし向ひたるほどの情けばかりにてこそ侍れ、これは、昔ながらつゆ変ることなきも、めでたきことなり。

(『無名草子』による)

(注) めでたく…すばらしく。 文にこそ侍るなれ…手紙でしようね。

なほ…やはり。 遙かなる世界…遠い土地。 なかなか…かえつて。

思ふほども続けやらぬ心の色…意のままに表現できない内面。 劣りてやはある…決して劣っていませんよ。

言はまほしきことをも…言いたいことも。 昔の人…昔なじみの人。 いみじくあはれに…たいそうしみりとし。

たださし向ひたるほどの情けばかりにてこそ侍れ…(人の交わりは)顔を合わせている間だけの気持ちの通い合いです。

(一) 文章中の——線部1の「あひ向ひたるに」を現代仮名遣いに直して、——線部全部をひらがなで書け。

(二) 文章中のに当てはまる言葉として適切なものを、文章中から一字でそのまま抜き出して書け。

(三) 文章中の——線部2に「その折」とあるが、これはどのような時のことか。その説明として最も適切なものを、次のア～エから一つ選び、その記号を書け。

ア 「昔の人」に手紙をもらった時。 イ することもなくて「昔の人」を思い出す時。

ウ 「昔の人」の手紙を見つけた時。 エ 「昔の人」と一緒に亡き人の手紙を見つけた時。

(四) この文章で述べられている内容と合っているものを、次のア～エから一つ選び、その記号を書け。
ア 手紙のすばらしさは、『枕草子』でそのすばらしさが繰り返し述べられていたり、昔から多くの人たちによって手紙の良さが書き記されていたりすることにある。
イ 手紙のすばらしさは、面と向かって言えない心のうちを伝えたり、距離や時間を超えて手紙をくれた相手のことを感じたりすることができることにある。

ウ 手紙のすばらしさは、何年も会わない人でも身近に感じることができたり、亡くなった人の記したのから新たに学ぶことがあったりすることにある。

エ 手紙のすばらしさは、口にしづらいことも文字にすることで伝えやすくなったり、紙に書き記されたものであるため長い間保管できたりすることにある。